

令和6年度（2024年度） 第2回  
八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会

日時・会場	令和6年（2024年）7月30日（火）10:00～12:00 第6委員会室	
出席者	委員	石井 修一（八王子市町会自治会連合会） 上村 晃一（市民委員） 黒岩亮子（日本女子大学） 齋藤 健（八王子市民活動協議会） 下島 宏文（市民委員） 豊田聡（八王子市社会福祉協議会） 山下晋矢（八王子市医師会）
	市職員	立花福祉部長 中嶋生活福祉担当部長 柏田福祉政策課長 吉本高齢者いきいき課長 櫻田障害者福祉課長 小俣生活自立支援課長 中山健康医療政策課長 白石保健総務課長 原子どものしあわせ課長 丸山生活福祉総務課長 成田生活福祉地区第一課長 小林生活福祉地区第二課長
欠席委員	島崎 誠（八王子市民生委員児童委員協議会） 室田 信一（東京都立大学） 丸山 颯姫（市民委員）	
次第	1. 開会 2. 議題 “つながり” 創出の進め方と「はたらきかけ」について 3. 報告 (1) 福祉部職員による不適切発言事案の再発防止に向けた改善策の取組状況について (2) 第3期八王子市地域福祉計画の進捗・評価報告について (3) 孤独・孤立対策について 4. その他 5. 閉会	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	なし	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4期八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会委員名簿(R6.4.1時点)</li> <li>・ 【資料1】 “つながり” 創出の進め方と「はたらきかけ」について</li> <li>・ 【資料2-1】 福祉部職員による不適切発言事案の再発防止に向けた改善策の取組状況について</li> <li>・ 【資料2-2】 福祉部職員による不適切発言事案の再発防止に向けた改善策の主な取組状況</li> <li>・ 【資料2-3】 福祉部における職員不適切発言事案の再発防止に向けた改善策について(令和4年(2022年)6月策定)</li> <li>・ 【資料3】 第3期八王子市地域福祉計画の進捗・評価報告について</li> <li>・ 【資料4】 孤独・孤立対策について</li> </ul>	
会議の要旨		
	1. 開会 審議の都合上、3.報告(1)を行い、2.議題、3.報告(2)(3)と進行する。  3. 報告 (1) 福祉部職員による不適切発言事案の再発防止に向けた改善策の取組状況について < 【資料2-1～3】に沿って説明（中嶋生活福祉担当部長、成田課長） >	

<b>質疑応答</b>	
上村委員	7～8年前に小田原市で同様な案件が発生し、意識改革があった。 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、申請者が増えてきていると聞いている。1人当たりの担当数は。
小林課長	概ね100件程度であるが、120件程度担当している職員もいる。
豊田委員	【資料2-1】P2の職場内でフォローしあえるか、一部の職員に偏りがあるというのは具体的にどういうことか。
成田課長	新人、異動者に対しての教育や、経験者に困難ケースが偏る傾向がある。
石井委員	全体的に見て令和4年度と令和5年度を比較して結果に変化がないが、どのようにとらえるか。
小林課長	新規ケース等の対応により業務が増え、ケースワーカー業務の負担軽減があまり進んでいないため、結果に表れていないと認識している。
石井委員	地下1階に来庁する市民の方は市役所の中で一番多く、対応するのは大変だと思う。簡単に令和4年度～6年度を比較しても、改善するのは難しいと思う。
小林課長	時間的な余裕がなく、ケース記録の作成や、新規申請者の増加による事務処理作業も増えている。現在システム内に記録ができるよう検討を進めている。
黒岩会長	抜本的な体制、人員増は難しいか。
小林課長	市全体の職員数の枠があり人員増は難しいため、業務の見直しの方向で進めている。
豊田委員	時間外は増えているか。
小林課長	若干増えている。
山下委員	【資料2-1】P4ケースワーカーに必要なスキルや知識向上の機会を十分に確保されていると思いますかの問に対し、1/3の職員がはいと答えているが、2/3の職員がいいえと答えており、この分析が必要だと思う。
成田課長	研修内容を録画していつでも見ることが出来るようにしているが、視聴する時間が時間外になってしまったり、動画を見るだけでは現地で受講するのと比べて効果も薄いと感じている。
上村委員	業務の委託（軽度なケースなど）を検討したことは。
小林課長	ケースワーカー業務の委託は難しいと考えている。
山下委員	【資料2-3】P9(7)デジタル化による業務効率化について 医療分野では、訪問診療等の情報をICカードに一元化し救急搬送された際に読み取り活用する仕組みがある。福祉の領域でも活用できないか。
立花部長	マイナンバーカードがその役割になる予定である。

	<p>2. 議題 “つながり” 創出の進め方と「はたらきかけ」について        &lt;【資料1】に沿って説明（辻野主査）&gt;  <u>「行政と社会福祉協議会でも模索をしながらつながりについてのはたらきかけを行っていくが、各委員の立場から“つながり”創出の進め方、どんなはたらきかけができるか。」</u>を本日の論点として議論を行った。</p>
石井委員	<p>現在、17町会ある横山南地区に住んでいる。地区内の町会自治会で様々なイベントを開催しており、八王子よこやま南マーチングフェスティバルを創設し今年が3回目にあたる。大学生が(例年 300 名程度)ボランティアに参加してくれるため、学生と町会のつながりが良くなってきていると感じている。小学生がパレードすることにより、その家族や友人等幅広い年代の方がお祭りに来てくれている。お祭りを通じてつながりを創出したいと考えている。</p> <p>大学が多いので、大学生を巻き込んで地域の活性化をしたい。市内 18 館ある市民センターは市民の憩いの場や勉強の場として福祉とつなげられるよというのではないか。</p>
齊藤委員	<p>所属している市民活動協議会でも様々な活動をしており、子どもを育成する取り組みを積極的に取り入れ、活動を通して社協・市民の方とつながりが創出されていると考えている。</p>
山下委員	<p>先日参加した、ホスピタルショウの講演で、地方の小都市がコミュニティナースの働きかけをしているが、八王子市は、面積が広く、規模が大きいため、重点ポイント(学校、宗教法人、病院、人が集まる場所)につなかりの働きかけをする人を配置するつながりづくりをする必要がある。</p> <p>つながりづくりの業務を行うのはボランティアではなく、業務の一環として行う必要がある。</p> <p>企業がCSRを進める中で、社会福祉に協力していくという文化があるが、八王子市が率先して業務の時間中に働きかけをやってみるなどが考えられる。</p>
齊藤委員	<p>ボランティア活動を積極的に取り入れている企業や大学とつながりを作ることも必要でないか。</p>
黒岩会長	<p>コミュニティナースの実践のように、戦略的に新たに役割をする人を生み出していくことが必要ということか。</p>
山下委員	<p>企業にとっても持続可能な共生社会の実現は長い目で見ると必要である。週に何時間は業務の一環として時間を確保する等の持続可能な戦略が必要になると思う。</p>
下島委員	<p>以前、企業として、地域に貢献し、つながりを作る必要があると考えたため、ボランティア団体を設立し、市が助成する制度を活用して、コミュニティナースを始めようとしたことがあった。</p> <p>社員が業務中に取り組む案もあったが、大学生を巻き込む案もあった。大学生としても単位やガクチカ(※学生時代に力を入れたことの略語)につながるため、関心が高い。個人的な見解としては、薬局、薬剤師の業界では、外来の薬剤師が減っており、今後は患者を在宅で看る介護の領域に入っていくと予想している。その場合、地域に貢献し、地域とつながりを作っていく必要があると考えている。</p> <p>一方で、企業にこの話をしても直接利益につながるづらい案件は、なかなか手が挙がらないと思われるが、採用難の時代なので、採用につながる形であれば協力する企業も出てくるのではないか。大学生は採用やガクチカにつながる、企業も採用やCSRができるメリットがある。</p>

黒岩会長	<p>大学も近年地域活動に目を付けている。つながりは良いものだからやりましょう、ではなく、自分たちのためにやって、それが実は思わぬ効果があるというつながりにつなげていくことが大切である。秋田市ではエイジフレンドリシティを実施している。八王子市でも特典や付加価値を作っていくのも良いのではないか。</p>
柏田課長	<p>地域共生を目指す上で、民間企業との共創や一緒に巻き込んで取り組んでいくことが重要であると考えている。</p> <p>ホスピタルショウでコミュニティナースの取組を聞いて、市としてはつなぎ手普及のためイベントだけでなく平時にもつながりが創出される活動が有効と考えている。</p> <p>企業を巻き込むためにはマネタイズ(収益化)が重要であり、コミュニティナースの活動は直接の利益にはつながりづらいが、実際にコミュニティナース活動を実践している病院や企業からは社員のエンゲージメントに繋がった点が非常によかったと聞いている。</p>
黒岩会長	<p>市職員にもあてはまることかもしれない。地域住民とふれあって感謝されるとか、価値があると思えるのではないか</p>
豊田委員	<p>社協の活動では、会費を集めることが近年困難であり、個人ではなく企業へ依頼する方向へシフトしている。今後の活動に生かせればと思う。</p>
石井委員	<p>町会自治会としては、企業学生だけでなく、町会自治会の発展も行っていきたい。福祉の発展には町会自治会が不可欠のため、市職員にはもっと町会自治会に加入して頂きたい。現在、町会自治会に加入している人は、5～6割程度。昔は定年が60歳だったが、現在は定年が延長され、定年後に地域活動に関わる時間や関心がなくなっている。</p>
黒岩会長	<p>地域のつながりの重要性を感じて、最終的に一番身近な町会・自治会に…という循環があると良いと思う。</p>
柏田課長	<p>先日あった事例として、福祉政策課では民生委員の担当を所管しており、新たに民生委員になられた方が40歳で非常に若い方だった。大手コンサルに勤めており、コロナ禍で在宅勤務が増えたことで地域活動に関心を持って民生委員になられた経緯がある。そういった若い方に地域の情報を届けていくことが今後必要になると思われる。</p>
上村委員	<p>コロナ禍に学生やサラリーマンが地域のために何かしたいという人が増えた。SNS等の導入により、地域活性化したという例もある。</p>
事務局	<p>3. 報告  (2)第3期八王子市地域福祉計画の進捗・評価報告について  &lt;【資料3】に沿って説明(鎌田主任)&gt;</p> <p>(3)孤独・孤立対策について  &lt;【資料4】に沿って説明(辻野主査)&gt;</p> <p>4. その他  次回分科会の開催は、11月11日14時～16時とする。</p> <p>5. 閉会</p>
<p>議事録署名人 黒岩 亮子</p>	